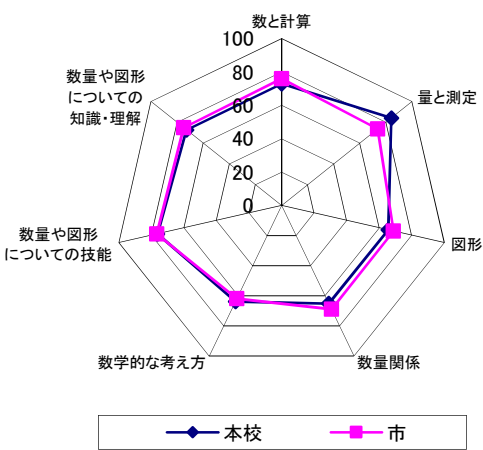


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.9	76.1	73.5
	量と測定	84.1	73.6	70.1
	図形	65.5	68.8	66.6
	数量関係	65.2	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	63.7	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	76.2	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	72.7	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、市の平均正答率を下回る。特に、小数同士のかけ算、分数の通分、分数の除法の意味が理解できていない児童が多かった。また、式を計算すると小数になるが、答えは整数にしないといけな問題で、その理由を説明できない児童が見られた。	・小数の加減乗除について、小数点の位置を中心に復習し、計算の仕方を身につけさせる。文章問題では、計算すると小数になるが、整数で答える問題の意味を理解できていないため、まずは、問題の意味を理解できるようにする。分数については、通分につまずきがあるため、最小公倍数の求め方の復習も行う。
量と測定	○平均正答率は、市の平均正答率を上回り、よくできていた。ただ、平行四辺形の面積を求める問題で、図形外にある高さにあたる場所を選べない児童が多かった。	・各図形の面積を求める公式を確認し、言葉の式が言えるようにする。「高さ」とは、どういうものを正しく理解できるよう例題などで確かめる。
図形	●六角形の内角の和を求める式を図をもとに選ぶことができない児童が多かった。三角形の内角の和を理解し、活用できていなかった。 ●線対称な図形の対応する点を見つけることができない児童が多かった。問題文をよく読まず、対称の軸を自分で判断し、誤答した児童が多い。	・三角形の内角の和などを活用できていないため、練習問題などで補っていく。 ・まずは、問題をよく読み、図に答えを導く手掛かりとなる数字や線を入れていく習慣をつける。
数量関係	●文字の式において、文章を読んで文字を使って2つの数量の関係を式に表せない児童が多い。 ●表から反比例していることが読み取れず、表の空いているところに当てはまる数を答えることができない児童がいた。 ○円グラフから割合を読み取ることは多くの児童ができた。	・問題文を読んで、簡単な図を描いて、そこにXやYを当てはめて考えるよう、図を描く練習をする。 ・比例は理解できるが、反比例の意味が十分に理解できていないため、XとYの関係をを中心に復習する。また、反比例の式を言葉に出して言えるようにする。